

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
- d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
※その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

最終難関大本番レベル記述模試

Ⅰ 採点基準（合計＝50点）

問一 5点 □

問二 8点（各2点） a＝ニ b＝ホ c＝ハ d＝ロ

問三 5点 ホ

問四 12点

（模範解答例）

話者と聞き手の間で通じる母語によって物語は共有されてきたが、近代国民国家の要請する統一された書き言葉である国語が学校で修得され、共同体を超え、言語を異にする人間によって読まれ、書かれる小説が興隆した。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う（A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない）】

A *物語についての説明

話者と聞き手の間で通じる母語によって物語は共有されてきた（母語の使用）…4点

B *物語から小説への変化に関する説明（国語の登場）

近代国民国家の要請する統一された書き言葉である国語が学校で修得された…4点

C *小説についての説明

共同体を超え、言語を異にする人間によって読まれ、書かれる小説が興隆した…4点

問五 5点 八

問六 10点

(模範解答例)

近代という時代がそこに生きる人間たちにもたらす不条理やトラウマを扱いながら、小説は言葉では再現することのできない現実が存在することを指し示すという使命をもつ

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A (小説は) 近代という時代に生きる人間たちにもたらす不条理やトラウマを扱う(鶏を保護の対象としながら、食用にするという矛盾)の指摘:5点

B 言葉では再現することのできない現実が存在することを指し示すという使命:5点
次のような解答でも5点を与える。

- ・ (言葉では語ることでできない体験、〈出来事〉を、物語として語るという使命)
- ・ (出来事の不可能な分有の可能性を賭けるといふ使命)
- ・ 〈出来事〉それ自体の在処を、指し示すといふ使命

問七 5点

二

大問二 問一

基準 配点.. 2点×4

■模範解答 ※解答例通り（漢字書き取り問題）

- 1 転機
- 2 堅実
- 3 果敢
- 4 固執

大問二 問二

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 6点

■模範解答

A

経験の内実に至ることのできない、

B

技術面だけにとられた反復。 (30字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…三十字以内 十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 経験の内実に至ることのできない…3点

- ・筆者が望ましいと考える「反復」(＝経験の内実の確認ができる反復)ではないということを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 技術面だけにとられた反復…3点

- ・「テクニカル」の意味を説明していないものは、要素B加点数なし

大問二 問三

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

□

大問二 問四

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

八

大問二 問五

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 6点

■模範解答

A

ある状況に対して、

B

新たな経験の仕方を見出すために、

C

それまでの経験の再組織化されるのを待つということ。(50字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…二十五字以内 十二字以下のものは全体不可(0点)

■要素A ある状況に対して、…2点

- ・「待つ」ことをする、「その場」を説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 新たな経験の仕方を見出すために…2点

- ・「待つ」こと理由を説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C それまでの経験の再組織化されるのを待つということ…2点

- ・「待つ」を言い換えて、そこで「得られること」の説明をしていないものは、要素C加点数なし

大問二 問六

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

□

大問二 問七

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答

A 色彩やデッサンのさまざまな表現手段を自分で確かめるために巨匠たちの研究をしたが、

B その際、できる限りその手法に同化し、

C 熟考したことを自分の制作に生かし、

D そこから完全に独自の仕方を見出すという修業。(97字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字以内 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 色彩やデッサンのさまざまな表現手段を自分で確かめるために巨匠たちの研究をしたが…3点

・「さまざまな表現手段を知るために、巨匠の研究をした」ということを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B その際、できる限りその手法に同化し…3点

・要素Aに対し、いったんは「同化する」ということを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 熟考したことを自分の制作に生かし…3点

・要素Bに対し、「熟考した上で制作に生かす」ということを説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D そこから完全に独自の仕方を見出すという修業…3点

・「独自の仕方」について説明していないものは、要素D加点数なし

★2021年度 早慶上理・難関国公立大模試

三 (古文『古本説話集』) 採点基準 ※50点

問一 a 空欄に入る助動詞を、次の中から一つ選び、空欄部に入るのに適当な活用形にして記せ。 【2点】

〔空欄部〕 なほ見え ば、

〔正解〕 ね (別解 ざれ)

〔ポイント〕

【2点】 ※「ね・ざれ」以外は×。

問一 b 空欄に入る助動詞を、次の中から一つ選び、空欄部に入るのに適当な活用形にして記せ。【2点】

〔空欄部〕 えこそ己おのれにたよりつく 。

〔正解〕 まじけれ

〔ポイント〕

【2点】 ※「まじけれ」以外は×。

問一 c 空欄に入る助動詞を、次の中から一つ選び、空欄部に入るのに適当な活用形にして記せ。【2点】

〔空欄部〕 いと楽しき法師 てぞありける。

〔正解〕 に

〔ポイント〕

【2点】 ※「に」以外は×。

問二 本文には「うちおどろきたる心地」が抜けている。入るべき箇所直後の五文字（句読点を含む）を第一段落から抜き出して答えよ。 【5点】

「正解」 いといと心

「字数」 五文字（句読点を含む）。

「ポイント」

【5点】 ※「いといと心」以外は×。

問三 傍線部Aとあるが、「たよりなかり」は、具体的にはどのような状態であることを言っているのか。解答欄に合わせて三字以内で答えよ。 【4点】

〔傍線部〕 いとたよりなかりける

〔解答例〕 貧しい 〔状態〕(3字)

〔字数〕 三字以内。

〔ポイント〕

【4点】 ※「貧乏な」でもよい。

問四 (一) 傍線部Bについて、六字以内で現代語訳せよ。

【3点】

〔傍線部〕 いとほし

〔解答例〕 気の毒だ(4字)

〔字数〕 六字以内。

〔ポイント〕

【3点】 ※「かわいそうだ・不憫だ」でもよい。

※「痛ましい・痛々しい」等は【2点】。

※「嘆かわしい・情けない」等は×。

問四 (2) 傍線部Bについて、どのようなことについて言っているのか。四〇字以内で説明せよ。【7点】

〔傍線部〕 いとほし

〔解答例〕 **A** 僧が、**B**3 いくつもの寺や神社に参詣し続けてきたのに、**C**3 何の御利益も得られないこと。(38字)

〔字数〕 四〇字以内。

〔ポイント〕

A【1点】僧が、

※**B**も**C**も**0**点の場合は得点できない。

※文意が通じれば「僧の」等でもよい。

B【3点】いくつもの寺や神社に参詣し続けてきたのに、

※「寺社(寺や神社)に参詣(参拝・参籠)したこと」の意があれば【2点】。

「寺社」が「寺」か「神社」のどちらかしか書かれていない場合は【1点】。

※右の【得点(2〜1点)】がある上で、「いくつもの」のような数が多いことを示す言葉、もしくは、「し続けた・百日・三百日」のような回数が多いことを示す言葉があれば、さらに**プラス**【1点】。

C【3点】何の御利益も得られないこと。

※「利益がない」の意があれば【2点】。

「利益」は「恩恵・恵み・幸運・幸せ」等でもよしとする。

「お告げ」となっている場合は【1点】。

※右の【得点】がある上で、「何の・全く」等、強く否定する言葉があれば、さらに**プラス**【1点】。

※これらの表現がなく、「利益があると思って・利益があると信じて」の表現がある場合は、「利益」が「恩恵・恵み・幸運・幸せ」等になっている場合であれば、「お告げ」となっている場合であれば、【1点】。

問五 ① 傍線部を現代語訳せよ。 【5点】

〔傍線部〕

A1 打ち撒きの米ばかり **B2** 給はりて、 **C2** 何にかせん。

〔解答例〕

A1 打ち撒きの米ぐらいを **B2** いただいても、 **C2** 何にもならない。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】 打ち撒きの米ばかり ↓ 打ち撒きの米ぐらいを

※ 「打ち撒きの米」は「神に供える米・魔除けの米」でもよしとする。単に「米」となっている場合は×。

※ 「ぐらい」は「くらい・程度・だけ・のみ・少しの・わずかな」等でもよい。

B【2点】 給はりて、 ↓ いただいても、

※ 謙讓の意がない「もらって・受け取って」等は **【1点】**。

※ 「も」の有無は不問。

C【2点】 何にかせん。 ↓ 何にもならない。

※ 「何になろうか、いいや、何にもならない」等、反語（否定）の意があればよい。

問五 ② 傍線部を現代語訳せよ。 【5点】

〔傍線部〕

A3

「いかやうにせさせ給ふべきにか」と、B1ゆかしくC1おぼえけり。

〔解答例〕

A3

「どのようにはからってくださるのだろうか」と、B1知りたくC1思われた。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【3点】「いかやうにせさせ給ふべきにか」と、 ↓ 「どのようにはからってくださるのだろうか」と、

※「神は・仏は・神仏は」等、主体の有無は不問。

※a「どのようにするか・どうするか」の意が読み取れば【1点】。

※aの【1点】が得点できている上で、尊敬の意「なされる・てくださる・おくなる」どのようにするか・どうするかがあれば【2点】。

(「ていただく」は尊敬ではないので×)

※aの【1点】が得点できている上で、「べき」の意「だろう」「(推量) ・ ・ ・ つもり ・ ・ ・ しよう」(意志) ・ ・ ・ ことになっている「(予定)のいずれかがあれば【2点】」。

※aの【1点】が得点できている上で、尊敬の意も、「べき」の意もある場合は【3点】。

B【1点】ゆかしく ↓ 知りたく

※「分かりたく・見たく・聞きたく・心ひかれるように」等でもよい。

C【1点】おぼえけり。 ↓ 思われた。

※「感じた・自然と思われた」でもよい。

※自発的な意味がない「思った・覚えた」等は×。

問五 ③ 傍線部を現代語訳せよ。 【5点】

〔傍線部〕 **A1** 使ひを **B2** 尋ぬれど、 **C2** おほかたなし。

〔解答例〕 **A1** 使いの者を **B2** 探したけれど、 **C2** まったく見つからない。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

A 【1点】 使ひ ↓ 使いの者

※人物であることが分かれば「使い・使者」等でもよい。

※文意が通じれば「使いの者の居場所（居所・ありか）・使いの者の行き先」等でもよい。

B 【2点】 を尋ぬれど、 ↓ を探したけれど、

※「を探し求めたけれど」などでもよい。

※「けれど」は、逆接になっていれば「が」でもよい。

※「を探す」の意はあるが、逆接になっていない場合は **【1点】**。

※「尋ねるけれど・質問するけれど」等は **X**。

C 【2点】 おほかたなし。 ↓ まったく見つからない。

※「いない・見つからない」の意があれば **【1点】**。

※「いなかった」のように過去になっていてもよい。

※右の **【1点】** がある上で、強い否定を示す語「まったく・一向に・全然」等があれば **【2点】**。

問六 傍線部Cは僧のどのような心情を言っているのか。六〇字以内で、わかりやすく説明せよ。【8点】

〔傍線部〕 いと心憂く思へど、

〔解答例〕

A3 神は何かもつと良いものを下さるだろうと期待していたのに、**B3** 下されたのが夢で見たとおり白米と紙であったので、**C2** 落胆する心情。(59字)

〔採点方法〕 各要素単独採点。〔字数〕 六〇字以内。

〔ポイント〕

A【3点】 神は何かもつと良いものを下さるだろうと期待していたのに、

※ **Bが〇点の場合は得点できない。**

※ 「神のくれるもの(利益)に期待した(もつとよいものだと思った)」の意があれば**【3点】**。

※ 「神」がない「くれるもの(利益)に期待した(もつとよいものだと思った)」は**【2点】**。

B【3点】 下されたのが夢で見たとおり白米と紙であったので、

※ **Cが〇点の場合は得点できない。**

※ 「紙(良い紙・御幣紙)と米(打ち撒きの米・白い米)だった」の意があれば**【2点】**。

「紙」か「米」の片方しか書かれていない場合は**【1点】**。

「紙」も「米」もなく、「たいしたことのない物・つまらない物」の意が読み取れる場合は**【1点】**。

※ 右の得点(**【2〜1点】**)がある上で、「夢のとおり」の意があれば**プラス【1点】**。

C【2点】 落胆する心情。

※ 心情の説明になっていけば、文末が「心情」でない、「落胆している。」等でもよい。

※ 「落胆」は「がっかり・失望」、「気落ち・意気消沈・沈む・元気をなくす」、「つらい・悲しい」等でもよい。

※ 「憎い・気に食わない」等は**【1点】**。

問七 『古本説話集』は平安時代末期に成立したと考えられる説話集である。選択肢のうち、説話集でないものはどれか、一つ選び、記号で答えよ。【2点】

「正解」ニ

「ポイント」

【2点】 ※「ニ」以外は×。

四 (漢文) 採点基準 (合計 50点)

問一 各2点 8点

解答

a 〓もし b 〓すなわち c 〓ついに d 〓ゆえに

採点基準

- ・送り仮名のないもの1点 例 a 「も」 b 「すなわ」 c 「ついに」
d 「ゆえに」
- ・仮名遣いの誤り1点 例 b 「すなはち」 c 「つひに」 d 「ゆゑに」
- ・送り仮名不足・仮名遣いの誤りが重複したものは0点

問二 5点

解答

為楽

採点基準

漢字以外の記号などを付したもの…注意をして2点

問三 各6点 12点

(有名大はすべてひらがな)

解答

B 宜しく 誠を 尽くして 規諫す べし

a 1点

b 1点

c 2点

d 1点

e 1点

f 2点

g 2点

h 2点

C 暫くも 忘るる(り) 能はず

採点基準

*各要素1点ずつ加点してください。

B b 「誠に」は不可。

c 「尽くし」「尽して」「尽し」は許容。

d 「規諫する」は不可。

C f 「しばらくも」「暫も」「暫くは」は1点。

g 「(り)」「は不問。」「忘るるを」「忘るるに」など0点。

h 「能わず」も可。

*漢字がひらがなになっている場合は、各要素から1点減点。

*文として完成していないものは0点。

*「諫」は「諫」も許容とします。

問四 完答5点

解答

甲 へ

乙 ホ

採点基準

記号でなく、「甲 易 乙 難」と漢字で書いたもの

…注意を与えて2点

解答例

a 1点

そなたたちが いつも 私(主君)の逆鱗に触れること(怒り)を恐
れずに

b 2点

c 2点

上奏文を進呈(諫言を)してくれれば、私は どうして

d 1点

e 2点

f 2点

上奏文を進呈(諫言を)してくれれば、私は

国家が傾き破れる(破綻・滅亡する)心配をする ことがあるうか(いやない)。

採点基準

- * 会話文である。「そなた」「私」を説明しているもの、直して加点。
- * eの波線部は反語であれば可とする。
- eを「どうして〜するか」と疑問にしたものは不可。
- * 「常に」を模範解答にいれませんが、ない答案には「いつも・常々」など補ってください。不問とします。
- * 「君主」「主君」「君」「主」、「臣下」「家臣」「家来」どれも可。
- ただし「下臣」は「身分・地位の低い家来」のことなので、減点1点。
- * 「臣下」の「臣」の誤字「巨」に注意してください。
- 「諫言」の「諫」は「諫」も許容とします。

問六 10点

解答例

a 2点

b 3点

韓非子は、臣下は主君の逆鱗に触れないように、注意して諫言するべきだと考えているのに対し、

c 3点

d 2点

太宗は、臣下は主君の逆鱗に触れることを恐れず、諫言するべきだと考えている。

採点基準

* b・dの「諫言」は「意見」「説得」も可。

b 「注意して」に1点。ただ「諫言すべきだ」は2点。

c 「触れても」の場合は、2点。

aで「臣下は」があれば、cで省略しても可とする。

* 「君主」「主君」「君」「主」、「臣下」「家臣」「家来」どれも可。

ただし「下臣」は「身分・地位の低い家来」のことなので、減点1点。

* 「臣下」の「臣」の誤字「巨」に注意してください。

「諫言」の「諫」は「諫」も許容とします。

* 問五で漢字の誤字による減点をした場合は、直しをするだけで減点はなし。